

ビジネスパーソンの「お酒」に関する調査 2016

～ 若者の“お酒離れ”は本当？「お酒や飲み会が好き」と回答した割合は20代が最も高く、7割を超える～

ここ最近、「若い世代はお酒の付き合いが悪い」という声をよく耳にするようになりました。お酒の場を大事なコミュニケーションと捉えている方々にとっては、これはゆゆしき問題かも知れません。では、実際に若者の“酒離れ”なるものは進んでいるのでしょうか。またどれくらいの方が、どれくらいのペースで、果たしてどんなお酒をたしなんでいるのでしょうか。

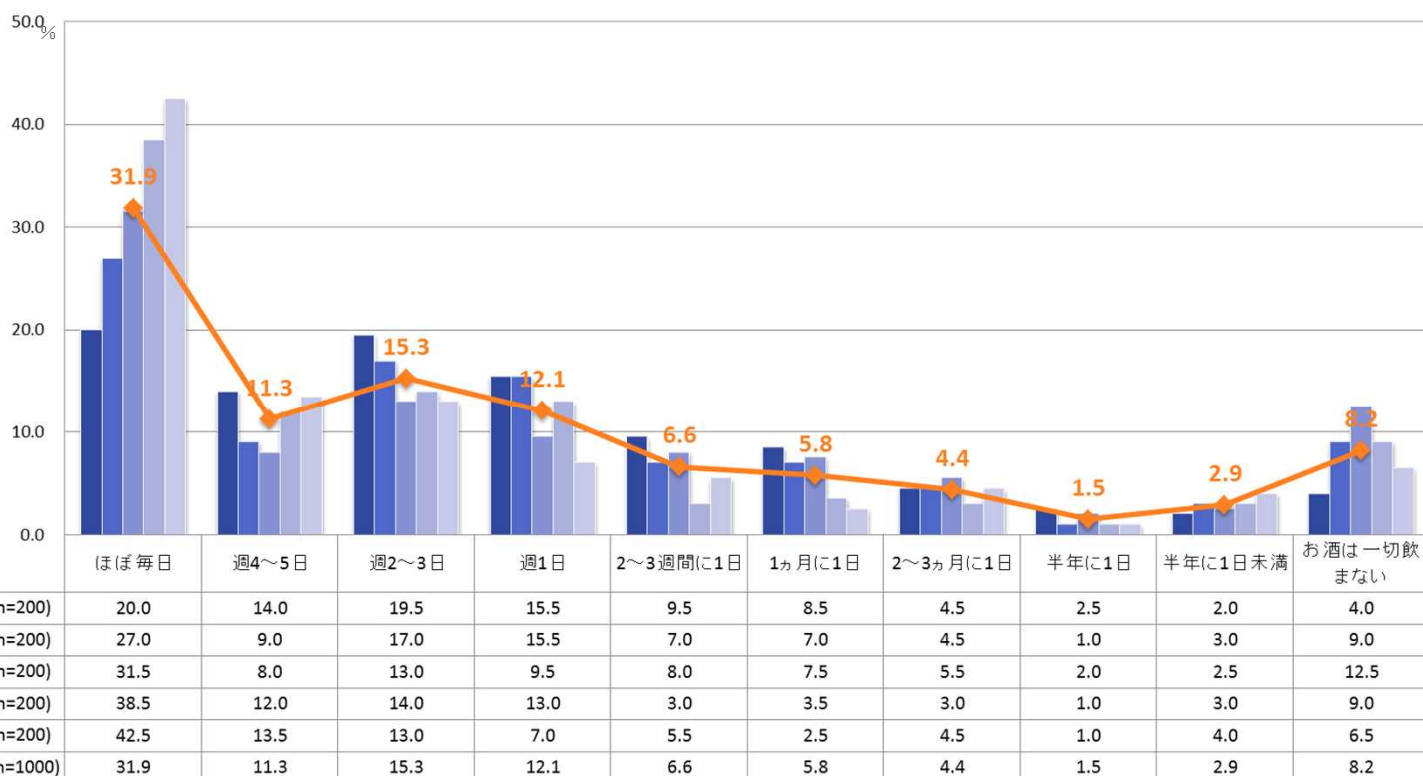
今回は、ビジネスパーソンのお酒との付き合い方を、お酒を飲む頻度や飲む相手、お酒の種類、使う金額、意識などから捉えてみました。ビジネスパーソン1000人のアンケートからその意識や実態にせまります。

【調査結果】

お酒を飲む頻度は、「ほぼ毎日」が31.9%と最多。「週2～3日」が15.3%、「週1日」が12.1%と続く。週に1日以上飲むという人は、全体で70.6%。「ほぼ毎日」という人は、年代が上がるに連れ、増加する傾向が顕著にあらわれた。

「ほぼ毎日」お酒を飲むという人は、20代では20.0%、60代では42.5%とダブルスコアに。「お酒は一切飲まない」は全体で8.2%、40代が最も高く12.5%となった。50-60代と20-30代では「お酒を一切飲まない」人全体の割合はほぼ同等であった。

【普段お酒を飲む頻度（自宅・自宅以外あわせて）】



自宅でお酒を飲む頻度は「ほぼ毎日」が29.1%、次いで「週2～3日」が16.1%。自宅以外でお酒を飲む頻度は「ほぼ毎日」はわずか1.2%、最も多いのは「1か月に1日」20.2%、次いで「週1日」19.4%。自宅以外で飲む頻度は20代が最も高い。

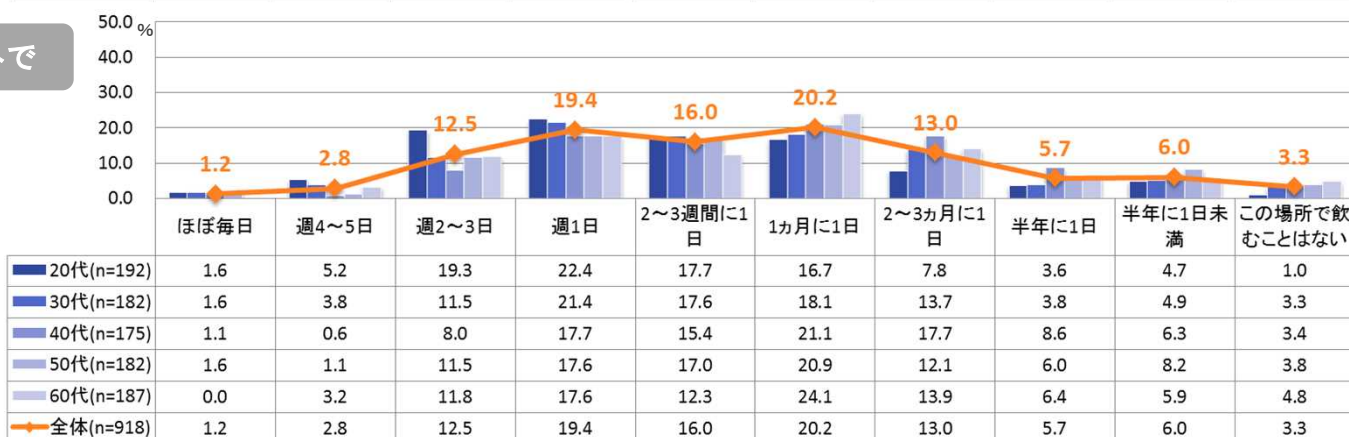
自宅週に1日以上お酒を飲む人は73.6%、やはり50-60代で頻度が高い割合が多い。自宅以外で週1日以上お酒を飲む人は35.9%、中でも20代が48.5%と最も高く、40代が27.4%と最も低い。60代も32.6%とその次に低い。自宅と自宅以外とでは、年代別の傾向が、特に20代、60代で全く異なる。

【普段お酒を飲む頻度（自宅/自宅以外）】

自宅



自宅以外



自宅以外でお酒を飲む相手では、「職場の同僚と」59.8%が最も高かった。「プライベートな友人と」54.5%、「仕事上の関係者と」36.0%。「職場の同僚と」「プライベートな友人と」ではいずれも20-30代が高く、「仕事上の関係者と」では40-60代が高い。

「職場の同僚と」は20-30代では65%近いのに対し、60代では52.8%。「仕事上の関係者と」は20代では28.4%、60代では42.1%。「夫婦で」はやや60代のみ高め、「ひとりで」はやや60代のみ低めだが、その他の世代での差はほとんどない。20代では「親と」が13.7%。60代では「子供と」が8.4%となった。

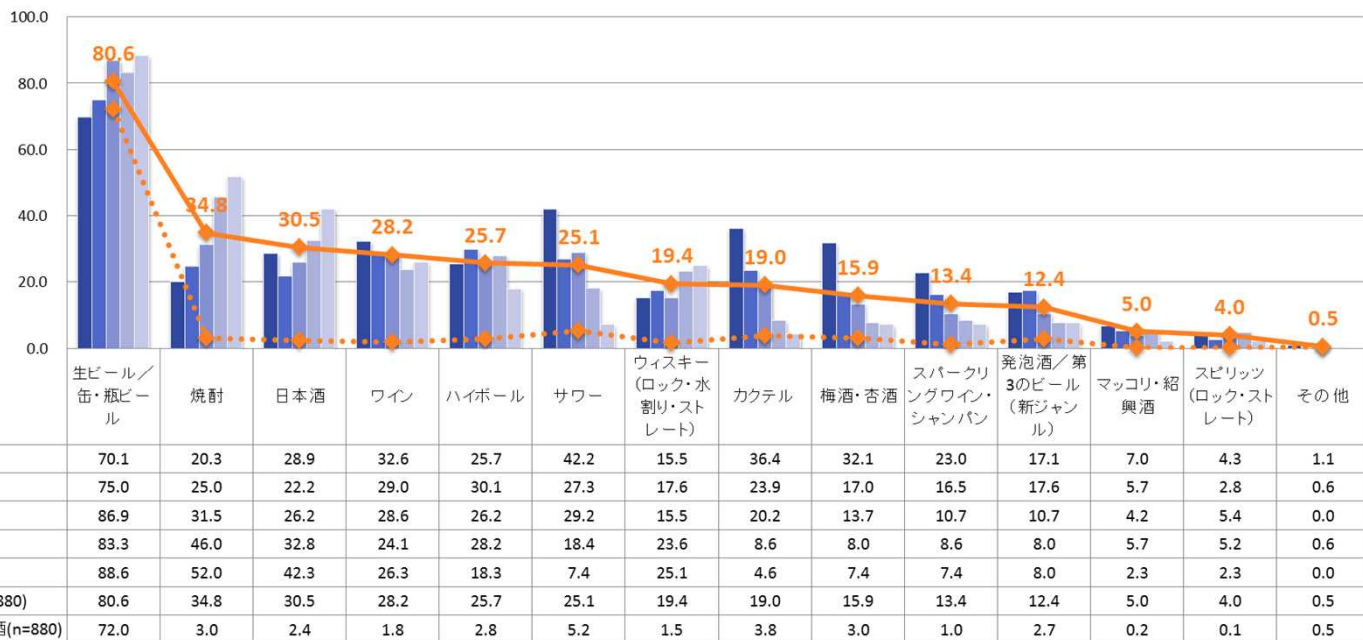
【自宅以外でよく一緒にお酒を飲む相手】



よく飲むお酒の種類は「生ビール/缶・瓶ビール」が最も高く80.6%。次いで「焼酎」34.8%、「日本酒」30.5%となった。「生ビール/缶・瓶ビール」は40-60代が高い。20代は「サワー」「ワイン」「カクテル」「梅酒・杏酒」等で高め。

「焼酎」は年齢が上がるほど飲む人の割合の増加傾向が顕著。「日本酒」では50-60代に次いで、20代が高い。「ハイボール」「サワー」「カクテル」などで60代が低い。また“一杯目に飲むお酒”（シングルアンサー）では、やはり「生ビール/缶・瓶ビール」が72.0%と突出。次いで「サワー」5.2%。

【よく飲むお酒の種類（自宅以外）】

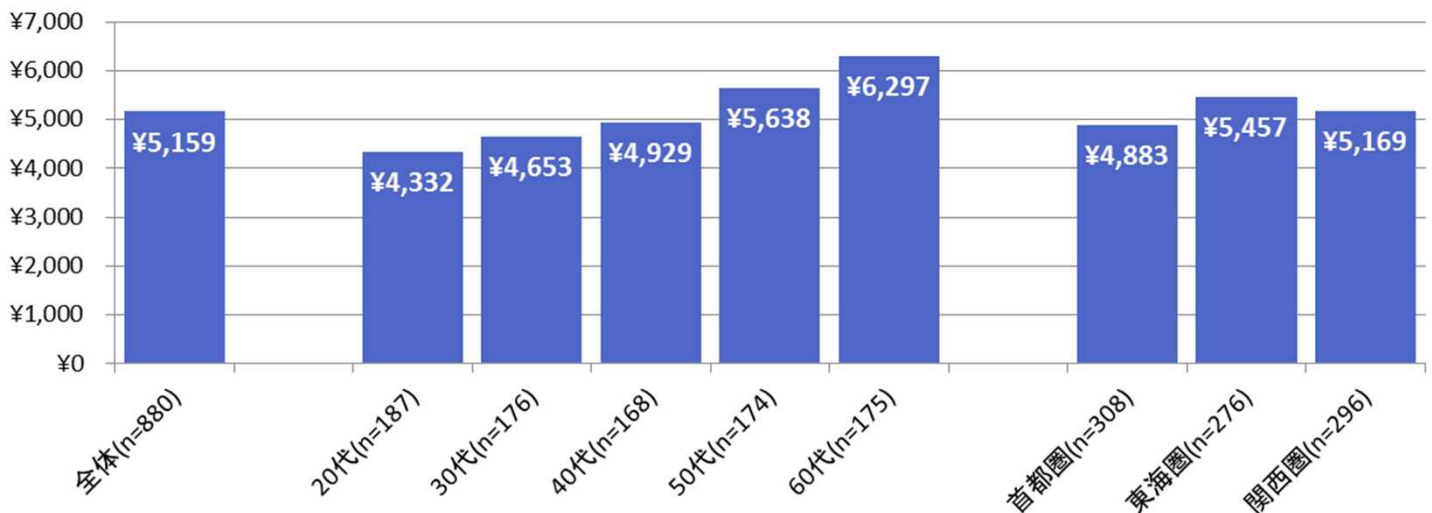


※年代別の値は「よく飲むお酒（マルチアンサー）」について。「1杯目によく飲むお酒」はシングルアンサー。

自宅以外でお酒を飲む時に1日で使う金額の平均は、5,159円。年代別では、年齢が高くなるほど出費が増える傾向があり、20代と60代では約2,000円の差が開いた。

年齢が上がるに連れて使う金額が増える傾向が顕著にあらわれた。エリア別では大きな差はないものの、首都圏がやや低く、東海圏が高い。

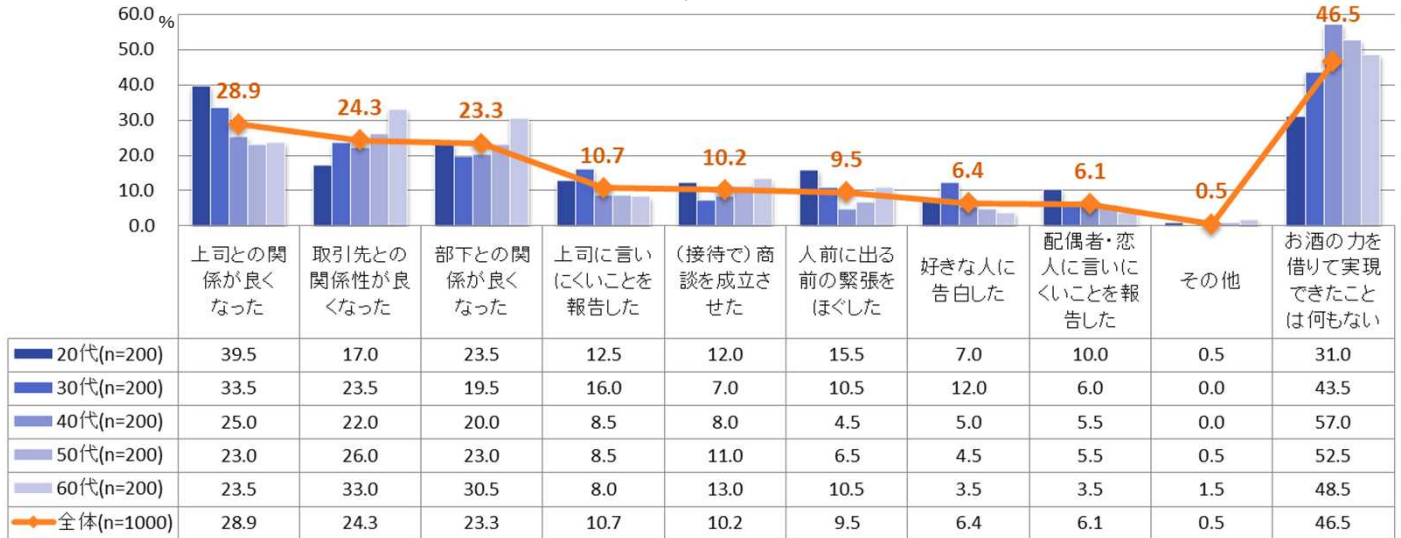
【お酒を飲む時に1日で使う金額（自宅以外）】



お酒の力を借りて実現できたことは、「何もない」46.5%が最も高いものの、「上司との関係が良くなった」28.9%、「取引先との関係が良くなった」24.3%、「部下との関係が良くなった」23.3%。過半数の人が、お酒の力を借りて何かしら実現出来たことがあると答えた。

「上司との関係が良くなった」は20代で最も高く、「取引先との関係性が良くなった」「部下との関係が良くなった」は60代で最も高い。「上司に言いにくいことを報告した」「人前に出る前の緊張をほぐした」「好きな人に告白した」「配偶者・恋人に言いにくいことを報告した」はそれぞれ20代もしくは30代が高め。40代では6割近くが実現できたことは「何もない」。

【お酒の力を借りて実現できたこと】

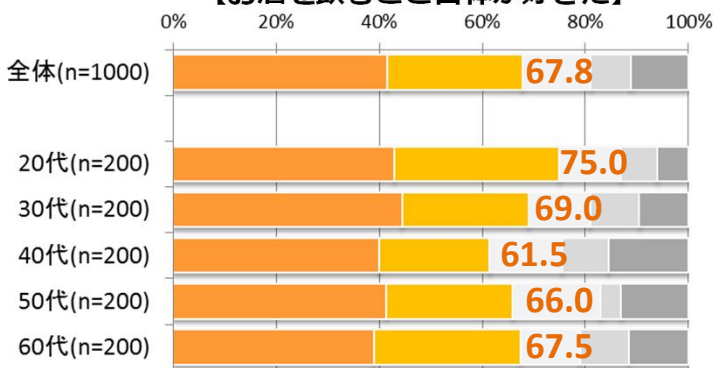


「お酒を飲むこと自体が好きだ」67.8%、「飲み会の雰囲気が好きだ」65.5%、「お酒は強い方だ」40.6%、いずれも20代が最も高い。「お酒はコミュニケーションを円滑にする」69.8%、60代および20代が高い。

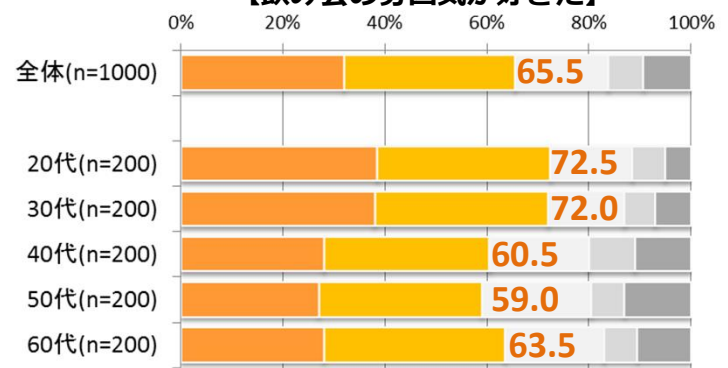
「お酒を飲むこと自体が好きだ」は20代が最も高く75.0%、最も低い40代では61.5%。「飲み会の雰囲気が好きだ」は20-30代で高く、40-50代が低い。「お酒は強い方だ」は40.6%と5割を切り、20代と60代で高く40代は低い。「お酒はコミュニケーションを円滑にする」と思う人は7割近い。

■あてはまる ■ややあてはまる ■どちらともいえない ■あまりあてはまらない ■あてはまらない

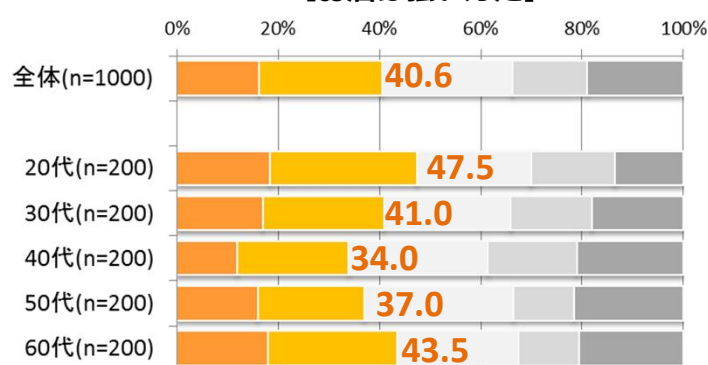
【お酒を飲むこと自体が好きだ】



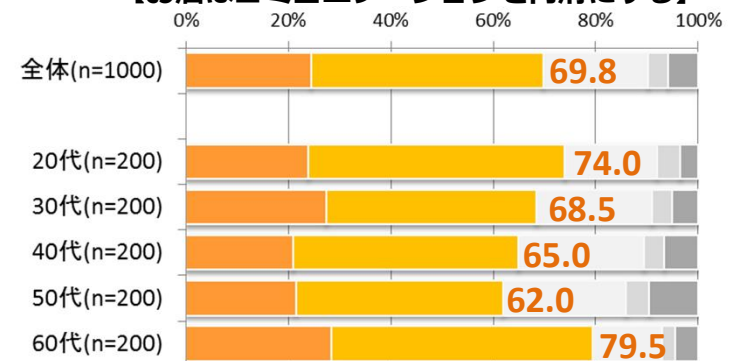
【飲み会の雰囲気が好きだ】



【お酒は強い方だ】



【お酒はコミュニケーションを円滑にする】



● 調査結果から

20代のお酒を飲む頻度は、調査結果からも確かに年配層に比べ低くなっています。ただ、飲む場所の違いを見ると、自宅で飲む頻度は、60代が高く20代が低いのに対して、自宅以外で飲む頻度では、実は20代が最も高く、60代は低くなる傾向がありました。特に20代は「職場の同僚」「プライベートな友人」と飲む割合も高く、40-60代は「仕事上の関係者」と飲む割合が高めです。

自宅で頻繁にお酒を飲む訳ではないけれど、同僚や友人と外でお酒を飲むことの多い20代に対し、接待など仕事関連の飲み会も多いものの、家にいる日もほぼ毎日お酒を飲む40代-60代との違いが見て取れます。

また、20-30代は「告白」「言いにくい報告」など、お酒の力を借りて自分を勇気づける傾向が強く、何かしらお酒の力で実現できたことのある人の割合も、他の年代に比べて高い結果となりました。意識面では「お酒を飲むこと」「飲み会の雰囲気」が好きと答えた割合は、20-30代や60代が高くでています。

調査からは、若年層が“お酒離れ”をしている様子は見て取れませんでした。確かに飲む頻度自体は若年層ほど低くなるものの、それは主に自宅でのことで、飲むこと自体は好き、かつ50-60代よりも自宅以外では誰かとお酒を飲んでコミュニケーションを取ることが多く、むしろ上手にお酒を“利用している”傾向も見られます。そしてその若年層の価値観は、60代と比較的類似していました。逆に、ネガティブな傾向が強かったのは40代となりました。仕事上の飲み会も多く、お酒の力を借りて何かを実現できた人の割合は低い。もしかするとこの世代が最も、お酒の席での苦い経験をお持ちかも知れません。

調査概要

調査方法	インターネットリサーチ
調査地域	首都圏(東京都,神奈川県,埼玉県,千葉県) 東海圏(愛知県,岐阜県,三重県) 関西圏(大阪府,京都府,兵庫県,奈良県,和歌山県)
調査対象	20歳～69歳の男女ビジネスパーソン(マクロミルモニタ会員)
割付方法	エリア(首都圏,東海圏,関西圏) × 年代(20,30,40,50,60代)を均等に回収 / 合計1,000サンプル
調査日時	2016年3月18日(金)～2016年3月20日(日)
調査機関	株式会社ジェイアール東海エージェンシー 株式会社マクロミル
その他調査項目	・自宅でよく飲むお酒の種類/1杯目に飲むお酒の種類 ・自宅でよく一緒にお酒を飲む相手 ・自宅以外でよくお酒を飲む場所・店 ・お店を探す時によく利用するメディア・チャンネル ・お店を探す時に最も利用するメディア・チャンネル ・お酒についての意識(昔に比べお酒が弱くなった)

<調査結果の引用・転載、取材などに関するお問い合わせ先>

株式会社ジェイアール東海エージェンシー コミュニケーションデザイン部 担当：釣谷・大橋

TEL: 03-6688-7847 e-mail: n-tsuriya@jrta.co.jp